

利用—水生植物ホテイアオイを例として—
化学と生物 18: 231—236.

豊田清修. ハス『植物の生活誌』(堀田編. 平凡社):
149—155.

Ahmed, S.A., M. Ito & K. Ueki. Water quality
as affected by waterhyacinth decomposition after
2, 4 - D and Ametryne application. Weed Res.
Japan 25: 286—293.

Ikusima, I. The adventive spread of submerged
plants in Lake Biwa, Japan. Tropical Ecology
& Development, 1980: 855—860.

————. Recent contributions to the study of
aquatic macrophytes in Japan. Proc. 1st Work-
shop for the Promotion of Limnology in Develop-
ing countries (1980, Kyoto): 7—12.

Komiya, S. & C. Shibata. Distribution of the
Lentibulariaceae in Japan. Bull. Nippon Dental
Univ., Gen. Educ. No 9: 163—212.

○「古川市化女沼およびその周辺地域植物調査報告書」
(古川市教育委員会、昭和56年4月、86P+写真15P)

近い将来、化女沼にダムが築造されるため、「現在の姿
を記録するとともに、その保護や保存のための資料とす
ること」を目的として、地元の先生方が調査された報告
書である。周辺の植生、化女沼の水草について結果が報
じられている。貴重な植物として、水草ではミズニラ、
デンジソウ、オオトリゲモ、タチモ、キクモ、ジュンサ
イがあげられている。植物目録から水草をひろってみる
と30種を越え、この沼が豊富な水草相を支えてきたこと
がわかる。ダムの築造によって水位が2m上昇するとい
う。水位管理の仕方によっては、ほとんどの水草が消滅
するだろう。このような報告書が出るのは喜ばしいこと
だが、それがこの沼の水草たちの最後の記録になる(か
もしれない)ことは寂しいことである。

水草については、次の報告が含まれる。

高橋弘子・高橋和吉. 化女沼の水生植物と水生植物群
落(pp 18~21)。

水草関係文献目録(1)

新しく出る文献については『文献リスト』で取り上げ
ていますが、このコーナーでは、1975年以前の文献を
リストアップしてゆきます。すぐれた着想の仕事であり
ながら、その存在すら忘れ去られているものが少なく
ない現実を思うと、このような作業も決して無意味では
ないと考えます。昨年より、暇をみてはいろいろな雑誌に
あたり、現在までに500篇近くリストアップしています。
今後、紙面の余白を借りて少しずつ掲載してゆく予定で
す。短い記事もできるだけ拾うようにしましたが、講演
要旨、抄録等は省いてあります。(角野)

<1887>

斎田功太郎. 東京産輪藻科植物. 植物学雑誌 1: 33—
36.

染谷徳五郎. 食虫草たぬきもノ説. 同上 1: 77—82.

牧野富太郎. 日本産ひるむしろ属. 同上 1: 2—7.

<1888>

伊藤篤太郎. 蓴菜粘稠液細胞論. 植物学雑誌 2: 99—
106.

染谷徳五郎・池野成一郎・牧野富太郎. ひしもどき
(*Trapella sinensis* Oliv. ?)ニ就テ述
ブ. 同上 2: 171—173.

(無署名). 水草ノ葉. 同上 2: 16.

(無署名). おにばすノ花. 同上 2: 87.

<1889>

岡村金太郎. ひつじぐさ科植物ノ比較解剖及ビ其分類.
植物学雑誌 3: 73—90.

————. 水草の比較解剖. 同上 3: 272—274,
329—333, 374—376.

賛化園主人. 最長キ和名ヲ有スル植物. 同上
3: 346—347.

牧野富太郎. まるばおもだか(*Alisma Plantago*, L.
var. *parviflorum*, Back.)ノ胎芽繁殖.
同上 3: 71.

(無署名). たぬきも(*Utricularia vulgaris*, L.)ハ
多年生本ノ一ナリ. 同上 3: 144.

<1890>

岡村金太郎. ひしもどきノ発生. 植物学雑誌

- 4:174-175.
 牧野富太郎. *Aldrovanda vesiculosa*, L. 日本否ナ東京近郊ニ産ス. 同上 4:235-236.
 -----. くろもノ雄花. 同上 4:301-302.
 -----. *Potamogeton hybridus*, Michx. ハ果ノ草木図説ノみづひきもナリヤ. 同上 4:302-303.
 -----. ひしもどき. 同上 4:303.
 -----. 東京近郊ノひるむしろニ二種アリ. 同上 4:302.
 -----. むじなも(新称) *Aldrovanda vesiculosa* L. ノ冬期経過. 同上 4:425.

<1891>

- 牧野富太郎. 繻條書屋植物雑記(其一)[内容:むじなも並ニひしもどきノ花, おにばす初期ノ葉状, 木曾河口ニすぎなもアリ, 他] 植物学雑誌 5:336-338.
 寸ノ松名ハ三字ハ壬人. 水草に水孔アリ. 同上 5:415.
 M. W. むじなも等ノ花候ニ就テ. 同上 5:264-265.
 S. M. 生. ミヅアフヒノ根. 同上 5:306-307.

X. Y. Z. 不忍池の蓮. 同上 5:310.

<1893>

牧野富太郎. ひしの学名. 植物学雑誌 7:313-314.
 マ、サ、生報. くろぐわいの球茎ニ就テ. 同上 7:456-458.

<1894>

柘植千嘉衛. 隠花植物実験録 第一 さんせうも *Salvinia natans*, L. 植物学雑誌 8:3-6.
 永沼小一郎. みづあふひノ雄ずい. 同上 8:6-7.
 牧野富太郎. まるばおもだかノ形状並ニ学名. 同上 8:171-172.
 -----. 日本産みくり属ニ三種アリ. 同上 8:507-508.
 松田定久. くわむトおもだか. 同上 8:137-142, 195-202.
 市, 塘. 蓮ノ咲花音. 同上 8:392-393.

※旧漢字を新漢字(一部ひらがな)に改めた所があります。

水草研究会会則

1. 本会は水草研究会と称する。
2. 本会は水草に関する研究および知識の普及と会員相互の親睦をはかることを目的とする。
3. 本会は上記の目的を達成するため次の事業を行なう。
 - (1) 研究発表会、講習会、採集会などの開催
 - (2) 会報の発行
 - (3) その他、必要と認めた事項
4. 会員は普通会員と特別会員とにわけらる。
 - (1) 普通会員は本会の趣旨に賛同して所定の会費を納めた者。
 - (2) 特別会員は会の推薦による顧問と名誉会員。
 - (3) 会員は会報の配布をうけ、本会の事業に参加できる。
5. 本会には次の役員をおく。

会長 1名, 副会長 2名, 会計 2名,
 幹事 若干名,
 役員ノ任期は2年とする。ただし重任を妨げない。
 本会は名誉会長をおくことができる。

6. 役員ノ選出は、役員会で推薦し、総会で承認を得る。
7. 役員ノ任務は次のようである。

会長は会を代表し会務を統べる。会長支障あるときは副会長がこれに代わる。会計は本会の経理を担当する。幹事は会務を処理する。
8. 総会は原則として年1回開催する。総会に付議するおもな事項はつぎのようである。
 - (1) 役員選出 (2) 会務報告 (3) 会則変更 (4) その他必要と認めた事項
9. 本会に入会するには、入会申込書に1年分の会費をそえて会長に提出する。退会する場合は、退会届を会長に提出する。ただし、退会ノとき、すでに納めた会費は払い戻しをしない。
10. 会計年度は1月1日より12月31日までとする。
11. 会費は年額2,000円とする。ただし特別会員は会費を徴収しない。
12. 本会の経費は、会費およびその他の収入による。
13. 本会の事務所は、会長ノ指定するところにおく。